

## 日本鐵鋼協會記事

○本月は理事會並編輯會を休會す

**圖書被寄贈並交換** 寄贈之部 ○北海道鑛山學會誌1ノ1(同會)○マツダ研究時報1ノ2(東京電氣株式會社)○理化學研究所彙報5ノ7(邦文)○研究報告 No. 63—67(歐文)○理化學研究所案内(理化學研究所)○特許公報948—959(特許局)○工業1(大阪工業會)○秋田鑛山專門學校學術報告1—3(同校)○駿工2ノ8(日本大學高等工學校駿工會)○名古屋工業會々報40(同會)○第三回汎太平洋學術會議第二要報○Second announe Cement (Suly 1926) (第三回汎太平洋學術會議常務委員會) ○東京帝國大學航空研究所事業一覽(大正十五年)(同研究所)○日本工業要錄2ノ6(同社)○大阪能率研究會誌1ノ5(同會)○  
 Vol11.No.6  
 Proceedings of the Imperial Academy June. 1926(帝國學士院)○會報 第51號 第5回定時總會部會號(電氣協會)○工業之大日本23ノ8(工業之大日本社)

**交換之部** 機械學會29ノ111號(機械學會)○商工月報1ノ2(東京商業會議所)○研究報告22(海防義會) ○燃料協會誌46(同會)○帝國鐵道協會々報27ノ4(同會)○造船協會雜纂 52(同會)○工政 81(工政會)○日本化學會誌 47ノ7(同會) ○工業化學雜誌 29ノ8(工業化學會) ○日本鑛業會誌 42ノ495(同會)○工業雜誌 62ノ788(工業社)○朝鮮鑛業會々報 9ノ1—2(同會)○エンジニアリング 8月號(同社)○大日本窯業協會雜誌 VoL 14 No 7(同會)○建築雜誌 40ノ484(建築學會)○石炭時報1ノ5(石炭鑛業聯合會)○名古屋工業會々報 40(同會)○大阪能率研究會誌 VoL 1 No 5(同會) ○支那の興國運動(經濟資料)12ノ7 ○經濟哲學序說(經濟資料)12ノ8(東亞經濟調查局)○地學雜誌38ノ450(東京地學協會)

### 會員名簿中訂正の分

氏名	會員別	項目	訂正
今井 弘	正會員	現居所	Bei Fran Piper, Sudw est Korso 7 II Berlin-Friedenau, Deutschland
石原 正治	"	"	大阪府豊能郡豊中吉野通り一丁目
石渡 清之助	"	"	市外品川町字南品川二丁目十二
石澤 命春	"	"	兵庫縣川邊郡立花村塚口新市街への拾號
飯島 懿男	"	"	栃木縣芳賀郡真岡町龜山
井口 當雄	"	稱號	工學博士
新田 義雄	准會員	現居所	市外千駄ヶ谷町四二二
堀岡 利一	正會員	"	市内麻布區弁町一五九
外島 健吉	准會員	"	京都市二條通り御幸町西へ入る村田竹次郎方

友田一太	正會員	宛名先	大阪市東區北濱四丁目大阪鐵板製造株式會社
小幡睿治	"	現居所	麻布區三軒家町三六
太田三吉	准會員	"	奈良縣磯城郡三輪町
大畑宇治郎	准	"	吳市中通り五ノ一諏訪元八方
大屋庄吉	正會員	勤務先及現居所	東北帝大金屬材料研究所 仙臺市堤通り十二菅原別邸内
岡理喜雄	准會員	現居所	市外中野町中野電信隊第一中隊見習士官
渡邊元雄	"	"	仙臺市片平町大學正門前佐藤方
加藤光享	正會員	"	大阪市此花區春日出町六五ノ一
川上義弘	"	官職名	砲兵大佐
河合匡	"	現居所	横濱市蒔田町字西九八
河原田稻夫	"	勤務先	陸軍造兵廠技術課
横山寅雄	"	現居所	府下荏原郡調布村田園都市三一四
田邊之次	"	"	八幡市祇園町野上丈雄方
田村宣武	"	"	市外戸塚町諏訪二二二
高橋章藏	"	"	神田區富山町一二
辰巳英一	"	"	麻布區筭町九四
竹内元清	准會員	"	福岡縣山門郡瀬高町下庄上町
竹内正彦	正會員	"	神戸市中山手通り四丁目
坪内義之	"	勤務先	大阪市此花區島屋町住友製鋼所
中島仙治	准會員	現居所	姫路市市役所脇
永野紋三郎	正會員	勤務先及職名	都市建設改良社 理事
長嶺敬三	"	"	陸軍造兵廠、屬託
渚房吉	准會員	現居所	大阪市港區鶴町一ノ二三
上野登	"	勤務先及職名	吳海軍工廠技手、吳海軍工廠造機部鍛鍊工場
内野久雄	正會員	現居所	府下松澤村字松原六六四
内山人也	准會員	"	福岡縣山門郡東宮長村
植山義久	"	勤務先	神戸市川崎造船所葺合工場製鋼部
野村健彦	正會員	現居所	吳市八幡通り一の六三
黑崎延次郎	"	"	市外落合村下落合一四四九
栗山安兵衛	"	"	市外日暮里町元金杉一四九
山田藤太郎	准會員	勤務先	三菱長崎造船所
山本尙義	"	宛名先	吳海軍工廠製鋼部第三工場

松尾 寛	准會員	現居所	香川縣高松市宮脇町
榊方 橋三郎	正會員	"	兵庫縣武庫郡御影篠坪一三六〇
藤村 蓋	"	勤務先及自宅	東京鋼材株式會社支配人、市外代々木一三二
古谷 徳太郎	准會員	勤務先及居所	日本製鋼所室蘭工場 室蘭市茶津町同袍寮
古澤 政造	正會員	"	海軍省艦政本部一部一課 芝區白金三光町二七三
福地 信世	"	現居所	市外駒澤町大字野澤小字北丸四五
福澤 彦次郎	准會員	宛名先	福岡縣田川郡島田村豐國鑛業會社内
小塚 壽吉	"	現居所	島根縣安來町永井歡藏方
後藤 尙	"	勤務先	陸軍造兵廠
權藤 薰平	"	現居所	福岡市六本松
荒木 弘	正會員	"	兵庫縣武庫郡御影町石屋字左美也一四三
佐々木 權市	"	"	麻布區我善坊町三七
齋藤 三三	"	"	本郷區駒込西片町十イ八十五
酒井 亮	准會員	"	芝區高輪北町五三
酒井 温	"	宛名先	神戸市脇濱町一丁目神戸製鋼所(米國紐育市鈴木商店)
貞森 朔男	正會員	現居所	市外代々幡町幡ヶ谷本村三九七
水谷 叔彦	(終)正會員	現居所	市外平塚町大字中延大原北一一三一ノ一
白水 孝一	准會員	"	長崎縣大寸歩兵第四十六聯隊第九中隊
氷上 克之	"	"	府下入新井町新井宿於伊勢原二〇九二
廣瀬 政次	正會員	宛名先	府下大島町六丁目東京鋼材株式會社内
平岡 通也	"	職名及宛名先	秋田鑛山専門學校々長、秋田市秋田鑛山専門學校
平野 二郎	准會員	現居所	長崎市城山町南三條一六
茂木 茂	"	"	神戸市外原田七〇五今一旅館
諸富 明治	"	"	大分縣白杵町白杵高等女學校
森 秀雄	"	"	府下入新井町不入斗八幡八八
森 彦三	正會員	名義變更	名古屋高等工業學校會計課
菅沼 茂	准會員	現居所	市外青山原宿三九五關儀八方
角野 尙徳	"	宛名先	八幡製鐵所第三製鋼工場
嘉村 平八	"	會員種別	正會員

備考 本年作製の會員名簿中以上の通り訂正の外新入會退會者死亡者は其都度本誌に掲載の通りなり

## 6月30日講演會に於ける質問 (本誌663頁に續く)

(製鐵作業上の遺利に就て 向井哲吉君)

○會長(鹽田泰介君) 唯今の御講演に對して御質問又は御説の有る方はどうぞ……

○河村驍君 彼處の表にある混鉄爐のスラッグでありますが、大正6年のシリカが36%であつたのが大正12年には65に殖え滿俺が27%から4%に減つたと云ふのはどう云ふ理由に依るのでありますか。

○向井哲吉君 要するに大正12年になりますと云ふと、滿俺が半分になつて居りますが、鉄鐵の滿俺も半分に減りました、其結果滿俺はうんと減つてしまつたのであります。

○河村驍君 シリカの方はどう云ふ理由ですか。

○向井哲吉君 それはちよつと私にも能く分りませぬけれども、分析上どうも其當時は大變多く出て居ります。

○河村驍君 あの分析は1箇月か何か平均にやつたのでせうか。

○向井哲吉君 是は仕事の方の平均であります、1箇月の平均と云ふのぢやありません、大變に下がつて、實は驚いて抛り込むのをやめたのであります。

○河村驍君 それからもう一つ熔鑛爐の方で13年1月の平均出鉄量が278匁、それから5月6月は300匁以上で大變殖えて居ります、5月6月があつた量だとすると1月に比し1割位出鉄が殖えたと云ふことになつて居りますから、随つて作業費なども1割位減つたと云ふことに量の土からもなるだらうと思ひます、1月と7月と殆ど同じやうな出鉄量でも矢張り今の御話の4圓何がしと云ふ経費が違ひますか。

○向井哲吉君 此4圓何がしと云ふのは3箇月平均してやつたものです、勿論、是は申上げませぬでしたが、平爐滓は一體鉄鐵部で3圓でやつて居るので、只ではないのでありまして、只でありましたらばまだ安くなるだらうと思つて居ります、それで私は只の所へちよつと値段を付けて4圓と申しましたが、是は3圓32錢です、けれども是も製鍊屋さんが十分にスラッグを良く造つて下さるやうになつたら宜くはないかと思ひますけれども……

○河村驍君 外國の平爐のスラッグのメタリックアイオンはどの位あるかと云ふことを製鐵所の方で御調になつた方はありませぬか。

○向井哲吉君 メタリックの方は調べたのはありませぬです、こちらでやりますのはスラッグの成分を調べるのは鐵を取つてしまひます、眼に見えるやうなものを……、そこで彼處にありますのは鐵が減つて居りますけれども、恐らくはあの外にまだあります筈です、どうもどこでもメタリックアイオンは分析になつて居りませぬ、あれだけはスラッグの組織上から言ひますと不必要なものだから取除けられるやうであります、混鉄爐滓の12月の12日の分には非常に鐵分が多かつた、それであれは鐵を利用する爲に使つて居つた、どうも轉爐にしましても混鉄爐にしましても、平爐にしましても、どうも金屬鐵が多いのは餘り感心せぬのですけれども、まだどうもどこを拜見しましても10パーセントばかりあるやうでございます、それでそれを段々と……是は私だけの考でありますけれども、調べて見ますと云ふと、ベーシック、シーメンスは製鐵所が元であると云ふので、御見學になる方もさう云ふ風に考へられて、それが元になつて居るのぢやあるまいかと思ふのですが、スラッグの組立てに付てまだ新機軸が出ないのではあるまいかと思つて居ります。

○辰巳君 ちよつと御尋ねしますが、製出鉄の分析表で、平爐滓を御使ひになつて後の分析表としてはシリカの方が半分に減つて、燐が倍に殖えて居ります……

○向井哲吉君 是が分りませぬですが、是が5月以後にはベーシックの方で燐が殖えて居りました、

それともう一つ、下の方の平爐滓……投下の際に於ける平爐滓はアルミナが大變に殖えて居ります、普通 14 位のものですが、23 かに殖えて居ります。

○辰巳君 平爐滓の影響と云ふ譯ぢやありませんまいな

○向井哲吉君 どうもさうぢやありませんまいと思ひます。

○會長（鹽田泰介君）まだどなたか御質問ございませぬか。

○某君 先程御話の内に排氣瓦斯を御使用になりまして、さうしてブローイングエンヂンを御使用になりましたら 1 馬力 6 厘に出來上がったと云ふ御話ですが……

○向井哲吉君 6 厘乃至 7 厘です。

○某君 瓦斯の單價は幾らです。

○向井哲吉君 單價が 2 厘、3.5 立方メートルで 1 馬力になります、それが當時獨逸のマンの送風機です、それで洗滌した瓦斯は 2 厘で取つて居りますから、それから計算したのであります、それは併し宜減の値で、本當の値ではないかも知れませぬ。

○倭國一君 ちよつと伺ひますが、大變に面白い利用法を聽きました、石灰を焼く炭酸瓦斯を鑛滓煉瓦の乾燥に利用する……あれはどうですか。

○向井哲吉君 あれは副産部ぢややつて居ないやうです。

○倭國一君 結果はどうですか。

○向井哲吉君 結果は今までスチームを入れるのは 60 時間掛かつたのを、36 時間で焼くのを考案した……

○倭國一君 やめて居ると云ふのはど云ふ譯で……

○向井哲吉君 今は重にスチームでやつて居るさうです、炭酸瓦斯を引張つて行くのは大變距離が遠くなるから……

○倭國一君 スチームを吹込んで行きますか。

○向井哲吉君 現在のはスチームです、併し事實を云ふと私は炭酸瓦斯でやつた方が安く付くと思ひます、それだと 24 時間、あれなども炭酸瓦斯の利用と云ふことには誠に工合好かつた、近いとよいですが遠いと云ふと隧道の設備費が大變掛かるものだから……、詰り元のコークス爐の様なものを造つて、あの中に煉瓦を入れてパイプで以て石灰爐の瓦斯を送つて行く、それに少し濕氣を含ませてやると云ふと、32—3 時間ならば立派に固まります、併し炭酸瓦斯が果して働くかどうかは試験しなかつたけれども、矢張り働きさうです。

○會長（鹽田泰介君）まだどなたかございませぬか……それではちよつと御挨拶申上げます、向井博士は 20 餘年間我が製鐵所に御在職になられまして、殊に銑鐵部長として我が製鐵業に御貢献になつたことは實に多大であると信じます、殊に我國は原料に於て十分でない國でありますからして、文献の上に現れて居る製鐵、或は外國の施設から今の人が良い施設と云ふこと以外に、博士御自身の御考案になつた改良が多々あること、信じます、其御經驗の一部を今日本會に於て御講演下さいましたことは誠に感謝の至でございます、博士は室蘭或は釜石邊に御出でになつて一昨日御歸京なつたと云ふことであります、我が製鐵業の爲に各製鐵所に御旅行になつて御經驗の事を經營者に御話し下され、或は經營者としては特に御願ひ申して博士の御經驗談を御聽きになつて改良を加へられると云ふやうなことは……此今日の御講演にあることは別として、其外の些細の事で經營上には非常に利益を來たすことがあるか知れぬと思ふのであります、でありますから、博士に於てもどうぞそれらの御盡力を惜まぬやうに經營者に於ても御願ひになつたらどうかと思ふ次第であります、本日の御講演に對して諸君と共に拍手して向井博士に御禮申上げたいと思ひます。

#### 一同拍手

○會長（鹽田泰介君）それでは是で散會いたします。（午後八時散會）